

災害発生時の備えについて

～あなたは大切なペットを守れますか？～



突然起くる災害では、人だけでなくペットも被災します。家族とペットが安心して避難するためには、災害に対する日頃からの備えが重要です。

ペットの「同行避難」とは

「同行避難」とは、災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行し、避難場所まで安全に避難することです。

被災動物を放置することで、その後の保護・給餌活動が困難となったり、また、飼い主が世話をため自宅に戻り、そこで二次災害に出会う危険性があります。

それらを防止するため、原則としてペットを同行して避難することが重要となります。

避難所での留意事項

「同行避難」とは、避難所において人とペットが同一の空間で居住できることを意味するものではありません。避難所では多数の人の集団生活となります。動物の苦手な人やアレルギーで動物と一緒にいられない人もいます。それぞれの避難所のルールに従って、飼い主同士が協力し、他人に配慮した飼養をしましょう。

また、状況によっては、避難所での受入れが難しい事態も考えられます。万一の時の預かり先を確保しておくことも大切です。

災害の発生に備えて

1 身元表示

迷子札
・氏名・連絡先

突然の災害に驚いてペットが逃げ出してしまい、飼い主と離ればなれになってしまふ可能性もあります。

迷子札などに飼い主の情報がしっかりと明示されていなければ飼い主のもとへ帰ることが難しくなります。

大切なペットのために、鑑札や狂犬病予防注射済票、迷子札、マイクロチップの装着等飼い主の明示を徹底しましょう。

※犬は狂犬病予防法において鑑札及び注射済票の装着が義務付けられています。



直径2mm、長さ8~12mmの円筒形の電子標識器具で、15桁の数字(番号)が記録されています。一度体内に埋込むと、脱落したり、消失することはほとんどなく、データが書きかえされることもない確実な証明となるため、犬や猫などのペットを中心として利用者が増えています。

2

基本的なしつけ

災害発生時にはペットも避難所での集団生活となることがあります。周囲に迷惑をかけないように、普段から基本的なしつけをしておきましょう。

キャリーバッグに慣らしておく、決められた場所で排泄できることや、犬では「待て、伏せ、おいで」等のしつけを、猫では人とのふれあいに慣らす等、社会性を身につけさせておきましょう。

おすわり!



3

健康管理の実施

他の動物との集団生活での感染症の蔓延や、被災時のストレスからの体調変化を少しでも防止するため、日頃から健康管理を行いましょう。狂犬病予防接種、ワクチン接種、ダニ・ノミの駆除を実施しましょう。



4

不妊・去勢手術の実施

万一、飼い主と離ればなれになった場合、不必要的繁殖を防止するためにも、不妊・去勢手術を実施しておくことが大切です。不妊・去勢手術は、避難所での集団生活において、他の避難者からの苦情にもなり得る無駄吠え等の問題行動の抑制にも効果があるといわれています。



5

ねこの屋内飼養

猫を放し飼いにすると、飼い主と一緒に避難することが難しくなります。また、日常でも、ご近所の庭を荒らしたり、車を傷つけたりと、結果的に近所の人たちに迷惑をかけることにもなります。猫は屋内で飼うようにしましょう。



6

防災用品の備蓄

救援物資はすぐには届きません。最低でも5日分を用意しましょう。大切なペットのためにキャリーバッグやケージ、「ペット用非常持出袋」を準備しておきましょう。



ペット用持出袋(例)

- フード、水、常用薬
- 首輪・リード(犬)
- トイレ用品
(ペットシーツ、犬用マナー袋等)
- 写真(飼い主と一緒に写っているもの)

- 健康の記録
(既往歴等)
- 食器



の防災用品例

猫

の防災用品例



災害時にペットの命を守るためにには、日頃からの準備が大切です。

このチラシについての
問い合わせは

- さいたま市動物愛護ふれあいセンター……TEL 048-840-4150
- 生活衛生課TEL 048-829-1299